

## 『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

### ●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

### ●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それを上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

## 文化人類学プログラム

<p>履修のしかた</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1年次または2年次春学期までに履修した方が良い科目： 専門基礎科目の「文化人類学概論」に加えて、専門科目の基礎・導入科目「文化人類学の歴史と方法」、また同じカテゴリーの基礎・導入科目から1科目を履修して下さい。文化人類学の対象は極めて広域に及びますので、それぞれの学生の興味・関心に合わせて、「理論・方法論」のカテゴリーにある宗教・多文化共生・ジェンダー・開発・観光・医療・環境・資源・遊牧文化論に関する人類学の科目や、さらに「地域・宗教・応用」のカテゴリーにあるアメリカ・アジア・日本地域、諸宗教、国際交流論、また情報や環境、SDGsに関連する科目や文化人類学フィールドワークの科目などを自由にかつ適切に組み合わせて履修し、発展的学習を目指してみてください。</li><li>・履修モデルとしては、メジャーとして履修する場合の4つの事例とマイナーとして履修する場合の1つの事例を作成しましたので、参考にしてみてください。</li></ul>
<p>他のプログラムとの関係</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文化人類学の研究対象は広い範囲に及びるので、関心のあるテーマや地域との関連で他のプログラムの科目を履修することも大いに推奨しています。特に文化人類学プログラムは社会領域のプログラムですから、それをメジャーにする場合は、マイナーは他の領域のプログラムから選択し、領域横断的に学びを深めていくことが重要です。理論・方法論の科目としては、歴史学、社会学、宗教学、コミュニケーション学の科目、また研究対象地域との関連では、統合領域プログラムにある、アジア・アメリカ・日本地域研究の科目や、国際協力、多文化共生、環境学、ビッグヒストリー、地域デザインなど科目を履修することもできるでしょう。</li><li>・メジャーとマイナーのプログラムを、それぞれ異なる領域から選択することで、学修の幅を広げ、相乗効果を生み出すように工夫して、科目履修の組み立てを考えてみてください。</li></ul>
<p>留学・教職その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文化人類学では、フィールドワークを主要な学問的方法論としています。したがって、留学や文化人類学フィールドワーク、また課題探求実践科目にあるサービスラーニングの科目を履修することも薦めたいと思います。</li><li>・文化人類学プログラムでは、学生が主体的に活動する桜美林大学文化人類学学生研究会(略称：OSSCA)と協働し、毎年、様々なイベントの企画開催や、近場でのフィールドワークなども実施しています。どうぞ積極的に参加して下さい。</li><li>・教職について：詳細は、教職課程ガイダンスに参加して情報を得て下さい。</li></ul>
<p>学生へのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文化人類学プログラムの魅力：グローバル時代といわれる今日、異文化についての理解力・洞察力は、生活の上でも、また仕事上でも、必要な「知的インフラ」であります。異文化に出会った時の驚きや新鮮さ、それについて現地で学ぶ時の楽しさなどを若い感性で十分に受け止め、各自の持つ力を最大限に伸ばして行って下さい。また一方で、実際には文化摩擦や文化衝突、さらには差別や迫害といったことが起きている世界の現状にも目を向けて、文化人類学の学びをいかにそうした諸問題の解決へと繋げていけるのかを深く考え、行動できる人になって欲しいと願っています。</li><li>・専門プログラムの運営方針：自ら課題を発想する力、それについて調べる力、その調べ物の成果をまとめて発信する力、これらの習得を重視します。そのため、専攻演習 I, II、または探究サービスラーニング、そして卒業論文または卒業研究、卒業サービスラーニングプロジェクトの科目履修を強く推奨します。</li><li>・履修生に期待される学習姿勢：旺盛な好奇心と主体的かつ積極的な学習を期待します。失敗を恐れずに、ともに大いに楽しみながら、チャレンジしていきましょう！！</li></ul>

文化人類学プログラム

1 多文化共生や国際交流に関心のある学生に向けた履修モデル

※内容説明※

この履修モデルは、文化人類学を学びつつ、多様な国籍・民族・宗教・言語をもつ人々との多文化共生や国際交流のテーマに関心を持つ学生向けの事例です。社会領域の文化人類学プログラムの基礎・導入科目や多文化共生の人類学・公共人類学・宗教人類学、また交流史や遊牧文化論、文化人類学フィールドワークの科目などの履修に加えて、統合領域の多文化共生プログラムやまたアメリカ・アジア・日本地域研究プログラムの歴史や文化や宗教の科目を履修し、学びを深めていきます。こうした専門の学修は、将来的には自治体や団体組織の国際交流事業や異文化理解教育に関わる仕事などで、その資質を生かすことができるでしょう。

文化人類学プログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2	○	異文化コミュニケーション A	2						
		世界史概論 A	2		社会学の理論と応用	2						
理論・方法論				○	宗教人類学A	2	○	文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
				○	多文化共生の人類学	2						
				○	公共人類学	2						
				○	ジェンダーの人類学	2						
					開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
					医療人類学	2						
					環境人類学	2						
					資源人類学	2						
地域・宗教・応用	○	アジア研究概論 A	2		アメリカの文化	2	○	アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2	○	韓国文化論	2	○	アメリカ社会と女性	2			
		環境文明論	2	○	中国文化論	4	○	日米交流史A	2			
		情報と社会	2	○	日本研究概論	2	○	日中交流史	2			
	○	イスラーム史概論	2		国際開発論	2	○	日韓交流史	2			
					SDGsとグローバルガバナンス	2		日本民俗学	2			
					日本芸術論	2	○	儒教文化論A	2			
							○	仏教文化論A	2			

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・ 専攻演習 I〔2〕
- ・ 専攻演習 II〔2〕
- ・ 卒業論文〔4〕
- ・ 探究サービスラーニング〔2〕
- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ コミュニケーション学入門〔2〕
- ・ 多文化社会論〔2〕
- ・ 多文化共生とコミュニケーション〔2〕
- ・ 社会学概論〔2〕
- ・ 歴史学の学びと方法〔2〕
- ・ 多文化共生とやさしい日本語〔2〕
- ・ 日本語の多様性と社会〔2〕
- ・ 日本の宗教・世界の宗教〔2〕
- ・ 比較社会学〔2〕
- ・ 国際関係論〔2〕
- ・ 国際法 A〔2〕
- ・ 移民法〔2〕
- ・ 国際コミュニケーション〔2〕
- ・ 対人援助コミュニケーション〔2〕
- ・ アメリカの歴史と民族〔2〕
- ・ アメリカの政治と社会〔2〕
- ・ アジアの歴史 I A〔2〕
- ・ アジアの歴史 I B〔2〕
- ・ 中東近現代史〔2〕
- ・ ASEANをめぐる国際関係 I〔2〕
- ・ アジアの経済〔2〕
- ・ 現代日本の政治 I〔2〕
- ・ 日本経済論〔2〕
- ・ 地域観光論〔2〕
- ・ 地球市民社会論〔2〕
- ・ 国際協力フィールドワーク(日本)〔2〕

## 文化人類学プログラム

### 2 特に宗教文化に関心のある学生に向けた履修モデル

#### ※内容説明※

この履修モデルは、文化のなかでも、特に宗教の比較や宗教的諸問題に関心をもつ学生向けのもので、文化人類学の基礎・導入の科目を履修した後、宗教人類学A、Bや、イスラーム史、儒教文化論、仏教文化論など科目を履修し、加えて人文領域の宗教学やコミュニケーション学プログラムの科目などを組み合わせて履修し、学修を深めていきます。さらに関心のある地域の文化論、ジェンダーや観光に関する人類学の科目を履修することもできるでしょう。宗教文化の理解やコミュニケーションの科目履修も含めた学修は、今後は観光業などの接客業でもますますニーズが高まると予想され、将来的にはそうした分野で活躍することもできるでしょう。

#### 文化人類学プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2	○	異文化コミュニケーション A	2						
	○	世界史概論 A	2		社会学の理論と応用	2						
理論・方法論				○	宗教人類学A	2	○	文化人類学フィールドワーク	2			
				○	宗教人類学B	2						
				○	多文化共生の人類学	2						
					公共人類学	2						
				○	ジェンダーの人類学	2						
					開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
					医療人類学	2						
地域・宗教・応用	○	アジア研究概論 A	2	○	アメリカの文化	2		アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2		アメリカ社会と女性	2			
		環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
		情報と社会	2		日本研究概論	2		日中交流史	2			
	○	イスラーム史概論	2		国際開発論	2		日韓交流史	2			
					SDGsとグローバルガバナンス	2	○	日本民俗学	2			
					日本芸術論	2	○	儒教文化論A	2			
							○	仏教文化論A	2			

#### その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 専攻演習 I〔2〕
- ・ 専攻演習 II〔2〕
- ・ 卒業論文〔4〕
- ・ 探究サービスマーケティング〔2〕
- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ 宗教学入門〔2〕
- ・ 宗教学概論〔2〕
- ・ キリスト教史概論〔2〕
- ・ 仏教史概論〔2〕
- ・ 日本の宗教・世界の宗教〔2〕
- ・ 実践宗教学〔2〕
- ・ イスラーム思想〔2〕
- ・ イスラームの法と社会〔2〕
- ・ 西洋哲学・思想史A〔2〕
- ・ 日本思想史〔2〕
- ・ 宗教と民族〔2〕
- ・ 宗教と文化〔2〕
- ・ 宗教とジェンダー〔2〕
- ・ コミュニケーション学入門〔2〕
- ・ 現代コミュニケーション学理論〔2〕
- ・ 対人コミュニケーションA〔2〕
- ・ 国際コミュニケーション〔2〕
- ・ 異文化理解教育〔2〕
- ・ 哲学の諸問題〔2〕
- ・ 倫理学の諸問題A〔2〕
- ・ 応用倫理学研究〔2〕
- ・ 地域デザイン概論
- ・ 地域観光論〔2〕
- ・ 多文化社会論〔2〕
- ・ 文化遺産論〔2〕
- ・ 平和論〔2〕

文化人類学プログラム

3 開発の諸課題や地域振興などの実践的テーマに関心のある学生の履修モデル

※内容説明※

この履修モデルは、貧困、環境、ジェンダーなど、広義の「開発」の諸問題に関心を持つ学生が、実践応用的な文化人類学を探究していく事例です。文化人類学の基礎導入科目の履修後、開発の人類学、公共人類学、ジェンダーの人類学、環境人類学、資源人類学、遊牧文化論などの科目や、さらに日本民俗学や芸術論を履修し日本の地域社会への学びを深めることもできます。加えて、統合領域の国際協力や環境学、地域デザインのプログラム、また関心のある地域研究の科目、SDGsとグローバルガバナンスの科目などを履修し、専門性を身に付けます。こうした学修は、将来的には国際協力やまた日本の過疎化問題や地域振興などと関わる仕事で役立つものとなるでしょう。

文化人類学プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2		異文化コミュニケーション A	2						
		世界史概論 A	2	○	社会学の理論と応用	2						
理論・方法論					宗教人類学A	2	○	文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
					多文化共生の人類学	2						
				○	公共人類学	2						
				○	ジェンダーの人類学	2						
				○	開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
				○	医療人類学	2						
				○	環境人類学	2						
				○	資源人類学	2						
地域・宗教・応用	○	アジア研究概論 A	2		アメリカの文化	2		アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2	○	アメリカ社会と女性	2			
	○	環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
	○	情報と社会	2	○	日本研究概論	2		日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2	○	国際開発論	2		日韓交流史	2			
				○	SDGsとグローバルガバナンス	2	○	日本民俗学	2			
				○	日本芸術論	2		儒教文化論A	2			
								仏教文化論A	2			

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・ 専攻演習 I〔2〕
- ・ 専攻演習 II〔2〕
- ・ 卒業論文〔4〕
- ・ 探究サービスラーニング〔2〕
- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ 国際開発論〔2〕
- ・ 人間開発論〔2〕
- ・ 国際人権法〔2〕
- ・ 開発経済学〔2〕
- ・ 子どもと開発〔2〕
- ・ ジェンダーと開発〔2〕
- ・ 地球市民社会論〔2〕
- ・ 地球規模環境論〔2〕
- ・ 持続可能な社会〔2〕
- ・ 国際協カインターンA〔2〕
- ・ 国際協力フィールドワーク(日本)〔2〕
- ・ ソーシャルビジネス実習〔2〕
- ・ 環境とまちづくり〔2〕
- ・ 環境と地域〔2〕
- ・ 地域デザイン概論〔2〕
- ・ 地域観光論〔2〕
- ・ 地域社会学〔2〕
- ・ 文化遺産論〔2〕
- ・ 文化政策論〔2〕
- ・ 博物館概論〔2〕
- ・ 博物館経営論〔2〕
- ・ 地域経済論〔2〕
- ・ 多文化社会論〔2〕
- ・ 地球市民社会論〔2〕

文化人類学プログラム

4 長い歴史と広い空間の文化・技術・持続可能性に関心のある学生に向けた履修モデル

※内容説明※

この履修モデルは、社会領域の文化人類学プログラムに軸足をおきながら、人類誕生以前からの長い歴史的スパンと地球を超える広い宇宙空間までを視野に入れた文化・技術・持続可能性などの事象に関心のある学生向けのものです。文化人類学の基礎導入科目の履修後、環境人類学・資源人類学・遊牧文化論・文化人類学フィールドワークなどを履修し、また統合領域のビックヒストリーや環境学さらに博物館学のプログラム科目と組み合わせることで学修を深めていきます。現代世界が抱える難題などに対処する力や発想力を身に付け、地球市民として活躍していくうえで役立つことになるでしょう。

文化人類学プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2		異文化コミュニケーション A	2						
	○	世界史概論 A	2		社会学の理論と応用	2						
理論・方法論				○	宗教人類学A	2	○	文化人類学フィールドワーク	2			
				○	宗教人類学B	2						
					多文化共生の人類学	2						
				○	公共人類学	2						
					ジェンダーの人類学	2						
				○	開発の人類学	2						
					観光人類学	2						
					医療人類学	2						
				○	環境人類学	2						
					資源人類学	2						
地域・宗教・応用	○	アジア研究概論 A	2	○	アメリカの文化	2		アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2		アメリカ社会と女性	2			
	○	環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
	○	情報と社会	2	○	日本研究概論	2		日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2	○	国際開発論	2		日韓交流史	2			
				○	SDGsとグローバルガバナンス	2		日本民俗学	2			
					日本芸術論	2		儒教文化論A	2			
								仏教文化論A	2			

その他の推奨科目 ※[ ]内は単位数

- ・ 専攻演習 I [2]
- ・ 専攻演習 II [2]
- ・ 卒業論文 [4]
- ・ 探究サービスラーニング [2]
- ・ 文化人類学概論[2]
- ・ 自然探求[2]
- ・ 環境学入門[2]
- ・ 自然地理学概論[2]
- ・ 天文学[2]
- ・ 地球システム科学[2]
- ・ 地球規模環境論[2]
- ・ 植物学[2]
- ・ 動物学[2]
- ・ 生態学[2]
- ・ 地球環境問題と国際取組[2]
- ・ 持続可能な社会[2]
- ・ 地球市民社会論[2]
- ・ 紛争論[2]
- ・ 平和論[2]
- ・ 科学・技術・社会A[2]
- ・ 日本の宗教・世界の宗教[2]
- ・ 宗教学入門[2]
- ・ 哲学概論[2]
- ・ 宗教と倫理[2]
- ・ 人間環境学 [2]
- ・ 環境社会学A[2]
- ・ 環境マネジメント論[2]
- ・ 循環型社会論[2]
- ・ 環境倫理学[2]
- ・ 応用倫理学研究[2]
- ・ 人と自然 [2]
- ・ 文化遺産論[2]
- ・ 博物館概論[2]

文化人類学プログラム

5 マイナーモデル

※内容説明※

文化人類学プログラムでは、社会の多面的な領域を扱う諸科目が展開されています。これら科目を各自の関心に応じて組み合わせ、マイナー履修とすることができます。下記の例は、人や文化の移動や交流に関心がある人を想定したマイナーモデルですが、参考のため一例にすぎません。自分の関心にそってユニークな組み合わせを考えてください。

文化人類学プログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎・導入	○	文化人類学の歴史と方法	2	○	異文化コミュニケーション A	2						
		世界史概論 A	2		社会学の理論と応用	2						
理論・方法論					宗教人類学A	2		文化人類学フィールドワーク	2			
					宗教人類学B	2						
				○	多文化共生の人類学	2						
					公共人類学	2						
					ジェンダーの人類学	2						
					開発の人類学	2						
				○	観光人類学	2						
					医療人類学	2						
					環境人類学	2						
地域・宗教・応用	○	アジア研究概論 A	2		アメリカの文化	2	○	アメリカ民族論	2			
		アジア研究概論 B	2		韓国文化論	2		アメリカ社会と女性	2			
		環境文明論	2		中国文化論	4		日米交流史A	2			
		情報と社会	2		日本研究概論	2	○	日中交流史	2			
		イスラーム史概論	2		国際開発論	2		日韓交流史	2			
					SDGsとグローバルガバナンス	2		日本民俗学	2			
					日本芸術論	2		儒教文化論A	2			
								仏教文化論A	2			

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・ 専攻演習 I〔2〕
- ・ 文化人類学概論〔2〕
- ・ 日本の宗教・世界の宗教〔2〕
- ・ 専攻演習 II〔2〕
- ・ 地球環境問題と国際取組〔2〕
- ・ 宗教学入門〔2〕
- ・ 卒業論文〔4〕
- ・ 持続可能な社会〔2〕
- ・ 人間環境学〔2〕
- ・ 探究サービスラーニング〔2〕
- ・ 地球市民社会論〔2〕
- ・ 循環型社会論〔2〕
- ・ 紛争論〔2〕
- ・ 平和論〔2〕